

# 地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,  
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepps/>

第168号 会 報 2000年 5月 15日

## 目 次

第205回運営委員会議事録 .....	1	人事公募・助成等 .....	5
2001年地球惑星科学関連学会合同大会について ..	2	地球電磁気・地球惑星圏学会名簿訂正用原稿 .....	8
EPS関連報告 .....	4	2000年合同大会のお知らせ .....	9
海外からの学会参加・国際研究集会派遣援助募集	4	SGEPSS Calendar .....	10

## 第205回 運営委員会議事録

[日時] 2000年1月25日 (火) 13:30-17:30

[場所] 東京大学理学部・旧1号館・4階417号室

[出席] 会長 松本 敏

運営委員 家森俊彦、井口博夫、岩上直幹、  
歌田久司、大村善治、小野高幸、品川裕之、  
田中良和、綱川秀夫、早川 基、星野真弘

運営委員補佐 笹井洋一、湯元清文

[欠席] 運営委員 麻生武彦、津田敏隆、山崎俊嗣  
運営委員補佐 横山由紀子

### 1. 前回議事録の確認

会報167号に掲載済

### 2. シニア会員制度の確認

シニア会員制度を確認し、申請書の様式を決定して、締切りを2月末として運営委員会にはかり、シニア資格を有する会員は4月から切りかえることにした。2月末の締切りを掲示板等で周知する。

### 3. 第16回井上學術賞報告

寺沢敏夫会員に授賞する旨の通知があった。

### 4. EPS運営委員会報告

科研費の申請が學術振興会へと替わり、これまでとは対応が異なってきた。申請段階のミスが許されなくなった。EPSのVOL. 50のオンライン化が行われ、VOL. 51についてもオンライン化をすすめて

いる。検索を効率的に行うためのキーワード検索機能をつけることを検討している。無料配布のリストを整備中。EPS誌は初期3年を過ぎての規約等の見直しをする準備作業が進められ、規約などの整理が行われている。合同大会までには、来年からのEPSの方向についての案を示す必要がある。特にEPSオンライン公開に関しては、主たる財源となる科学研究費出版助成金の主旨から、印刷物としての購読実績が重要であり、オンライン公開との兼ね合いについてもこの点を配慮しつつ、購読者数を増やす工夫をする。一般論としては印刷物としての配布の形態については見直す必要があり、将来的に電子出版にも対応する補助金とならないか學術振興会に打診してみる。この点については会長とEPS運営委員会の両方から働きかけてみる。

### 5. 新入会員・退会者の承認

新入会員

<正会員> 長浜 智生 (科学技術振興事業団)

退会者

<正会員> DJEDI SETYO Widarto (京都大学)

### 6. 会費滞納者の退会処分について

1999年12月末に督促状を送った。1月の会費納入状況を確認出来次第、前回運営委員会で確認した30名の長期滞納者を退会処分とする。

7. シンポジウム・国際会議の共催・協賛

2000年4月：日本天文学会2000年春季年会企画セッション「天体プラズマ」

2001年7月：第25回電離気体現象国際会議

2001年8月：2001年アジア・太平洋電波科学会議 (AP-RASC '01)

8. 学術会議会員候補者・候補者推薦人・推薦人予備者の選出について

2000年2月3日を期日に会員による投票を行い、学術会議会員候補者を2名、候補者推薦人を1名、推薦人予備者を1名選出し、学術会議に届けることを確認した。

9. 複合領域「プラズマ理工学」の科研費審査員の推薦について

学術振興会に移り、審査員の数も増えるので公平性が増すと考えられる。「プラズマ理工学」の科研費審査員の推薦をSGEPSSから認めてもらうように働きかける。「超高層物理」の申請が減らないように「超高層物理」の名称を工夫する必要もある。

10. 分科会活動について

ホームページ、URLの資料を代表幹事に提出してもらう。

11. 他学会との共催シンポジウムにかかわる出版物の経費負担について

惑星科学会との共催でシンポジウム「惑星探査の将来」を開催し、120名を超える参加を得て有意義なシンポジウムとなったが、その報告書を、両学会の責任で編集、印刷、出版する。電子出版としてPDF化してホームページに掲載する。出版費としSGEPSSより5万円を上限として支出する。今後、学会主催のシンポジウム・分科会の学会活動の

報告書をオンライン化して残すために、印刷費補助金を学会予算に組み込む。

12. SCOSTEPにおける長期計画について

SCOSTEPのLong-Range Planning Committeeが組織され、そのメンバーに入っている小野運営委員から報告があった。宇宙天気を傘として、Variable Sun-Earth Environmentのテーマのもとに方向付けがなされている。今後重要な分野となってゆく惑星科学・探査へのSCOSTEP事業としての取り組みについては、時間がかかるなどの点から難しいと考えている委員が大勢を占めている。

13. 2001年合同大会について

合同大会の開催と学会連合とは切り離して議論する必要がある。連絡会有志から、2001年以降の合同大会の運営を業者委託し実行委員会の労力を軽減することが提案されているが、参加登録費が12000円以上と試算されており定例の総会を開催する学会の参加登録費として適切ではない。代案として、(A) 学会間LOCで対処する、(B) 同一日程・同一場所で各学会が平行開催する、つまり会場費は分担するが登録作業とアブストラクトは学会毎に企画する、の二案を提案する。

14. その他

SGEPSSホームページのフォーラム等の意見が、インターネット上の検索プログラムにより、部分的に抽出されて参照されることがある。誤解を招く恐れがあるので、ホームページのデータが自動収集されないようにパスワード等により保護する必要がある。

本学会の学術分野に関する教育用のWEBページの作成を有志に依頼して、SGEPSSホームページに掲載する準備が進められている。(大村 善治)

## 2001年地球惑星科学関連学会合同大会について

2001年合同大会開催について、昨年6月より3回に亘る地球惑星科学関連学会連絡会および連絡会委員と学会幹部からなるメーリングリスト上において議論がもたれてきました。その結果、東大からの提案(1999年・2000年合同大会の継承、合同大会事務局の東大常設)が、4月20日の連絡会会合において承認されました。この案は、先の3月11日にSGEPSSを除く他学会の賛同で承認された「有志案」(業者全面委託、参加費倍増)と比較して、経費削減の努力と業者選択の自主性をうたっている点において、評価

できるものと考えます。しかし、その具体的な予算内容と実行内容が未定であり、SGEPSSとしては6月の総会をもって参加形式を決定する旨を連絡会に通知しました。

東大案では、参加費などの予算案、事務局長人選、業者委託内容など、具体的なことは新たに立ち上げる実行委員会で検討されることとなります。実行委員会は、東大、参加学会、個人の希望者から組織されます。2002年から先のことは、実行委員会でこれから検討します。このように、まだ東大案の詳

細は決まっていますが、実行委員会は早々に立ち上げられ、6月28日の拡大連絡会（各学会連絡会委員＋地物系学会会長等懇談会メンバー）でオーソライズされる運びになります。

SGEPSSが2001年合同大会に共催する場合には実行委員を出す必要があり、共催しない場合には協賛（自由参加）となりますのでその必要はありません。これらのことは5月末の評議員・運営委員合同会議で討議し、さらに6月27日の総会にて決定されることとなります。

2001年合同大会への対応は、昨年秋の総会で運営委員会・連絡会委員に一任されましたが、会員のみなさまのご理解を得るために、フォーラムにて公開議論をいたしました。しかしながら、これまでの事実経緯は複雑ですので、以下に主な流れを説明させていただきます。

2000年合同大会までは、大学LOC持ち回り方式で開催してきましたが、1999年合同大会が終わった後も、2001年を引き受ける大学組織がない状態でした。この背景には、2500人規模の大会を支えるLOCの労力負担が大きく、さらに10回目を迎えたこともあり、数的に引き受けられる大学組織を一巡したことがあります。この結果、1999年より始まった業者委託を増やして実行委員会の労力を減らし、受益者負担の原則により参加費を大幅に引き上げる案が、連絡会にて昨年8月頃から浮上してきました。

SGEPSS運営委員会としては、安易な参加費大幅値上げに反対し、特定の業者依存の危険性を指摘してきました。さらに具体案として、実行委員会の労力負担を避けるために、各学会の固有講演会を同じ場所で同一時期開催し、学会間共通セッションも設けるという開催方式を昨年9月29日の連絡会会合において提出しました。しかし、他学会では、合同大会の理念に反する、あらたな学会実行委員会の労力負担が生じるという理由などから、この案は受け入れられませんでした。連絡会会合では、業者委託の程度と参加費増のかねあいを検討することが決まり、その報告を各学会が検討することになりました。

しかしながら、昨年12月に、全国有志から構成される実行委員会を組織し、全面的な業者委託をおこない専任事務局長を雇用することで実行委員の労力負担を軽減し、参加費を12,000円に倍増するという「有志案」が、連絡会幹事会会長から出されました。同時に、その賛否を各学会に問うという事態になりました。SGEPSS運営委員会は、先の連絡会会合決定に基づき、参加費増によって実行委員会の労力負担がどの程度まで軽減されるかを示してもらうことが先決であるとの見解を今年1月に提示しましたが、他学会が「有志案」に賛同あるいは修正付き賛

同の意を表明するという展開になりました。運営委員会としては、昨年秋季総会決定に基づき、かつ、このような流れに対応するべく、安易な参加費増に反対することを表明し、新たな対案（A案：学会間実行委員会方式、B案：固有学会持ち寄り方式）を同1月に提出しました。

今年の3月11日に行われた連絡会会合で、SGEPSS案を説明しましたが他学会の理解を得られずに、業者全面委託・専任事務局長雇用・参加費倍増の「有志案」が部分修正された「修正された会長提案」として、SGEPSSを除く他学会の承認を得ました。また、この案に基づく実行委員会組織作りが、4月の連絡会会合で行われることも同時に他学会が承認しました。SGEPSS運営委員会としては、全国に広がる実行委員会を組織した自主運営方式により、労力負担が集中しないで行える新SGEPSS案を準備しました。また、「有志案」による現合同大会運営の安易な継承では、自由競争が明確でなく特定の業者委託になること、WEB所有権が不明確であることから、委託業者と対等な関係になく、将来的にさらなる値上げが行われる危険性があることを指摘しました。

その後4月8日に入り、東大地球惑星科学専攻が、3月の連絡会内容を受けて、東大を中核とする実行委員会を組織して事務局（複数の事務局職員から構成）を東大に常設することを提案しました。この東大案は、1998年合同大会方式（東大LOC）をベースとしたものであり、WEBは自主運営とし、業者委託もかなり削減して参加費値上げを最小限にとどめるというものでした。SGEPSS運営委員会は、検討の結果、東大案の実現に全面的に協力するという見解を表明しました。しかし、その後「有志」との折衝の結果、東大案は業者委託をして事務局長を雇用するという内容に変貌し、大幅の参加費増の可能性も見えてきました。

ここに至り、SGEPSS運営委員会は新SGEPSS案を連絡会MLにて提案しました。一方、東大案の具体的な内容が見えないことから、東大側に参加費・業者選定方式などについて折衝を続けました。その結果、東大案の具体的な方針として、業者選択・事務局長人選は実行委員会内で検討すること、経費削減と参加費以外の収入増に最大限の努力をすること、という見解が4月19日に連絡会MLにて公表されました。

4月20日に連絡会会合が開かれ、東大からの提案が承認されました。SGEPSS運営委員会としては、総会で参加・不参加を決めるまで保留することを通知し、新SGEPSS案は無用な混乱を避けるために提出しないことを説明しました。また、赤字の場合に、学会が応分を負担するか、学会が実行委員会に貸し出すかという議論が行われましたが、学会間の調整が

つかず持ち越しとなりました。

以上の経緯に関する各提案等の資料は、SGEPSS ホームページ (<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss/>) の「話題」の項目に「2001年合同大会について」というページを用意しておりますので、そこで全てをご覧になることが出来ます。また、同ホームページの「フォーラム」でも会員の方々の意見が掲載されており（パスワード保護されておりますが、ユーザー名とパスワードはforumです）、意見の投稿も自由に出来ますので御利用ください。

## EPS 関連報告

EPS 誌編集委員会並びに運営委員会の合同会議が4月20日に開かれ、EPS 誌の現状等について以下のような議論がなされた。

1. 科学研究費出版助成金に関して、平成12年度より15年度までの4年間について、出版助成金の内定通知があった。申請額の約80%の査定額にて認められており、当面のEPS 誌出版事業に関する財政の目処を立てることができた。
2. EPS 誌への投稿論文数はようやく軌道に乗ったようである。現在のRegular Issueへの投稿数は通算560編で、昨年1年間を通じての月平均は約10編であった。またrejectあるいはwithdrawの割合は約25%程度であり、水準を保っていると編集委員会では分析している。Regular Issueのみでも雑誌出版を維持可能な条件が整いつつあると判断されている。Special Issueについても意欲的な企画が多く申し込まれている。現在Special Issueについては200頁程度の規模を目処に企画されるよう要請しているが、今後ページ数の増加などに対してどのように対応してゆくか検討を必要としている。
3. 2000年度にてEPS 誌に関する規約、覚え書き等についての見直しをする事について作業が進められている。特に学会間内規における編集委員改選に関する規定については、これまでの運用の経験から、編集委員の交代や追加などに関して、改訂を要する部分があり、このための調整作業が必要とされる。
4. EPS の電子出版化に関してはVol. 52までをフリーで公開することが確認された。また投稿につ

いてもPDF文書ファイルによるものも受け付けることとした。更に査読についても、査読者が対応可能であれば、PDFファイルにて査読を行うことも検討中である。別刷りを購入する著者には印刷原稿ができあがった段階でPDFファイルを送付し、共著者への配布や著者のホームページへの添付が行えるようにする。尚、フリーで公開するにあたってアクセスログの記録方法について早急に固めることとした。

5. 電子出版にはカラー図面を使用し、印刷出版には、同じ図面を白黒化したものを使用することも可能とする。電子出版におけるカラー図面は論文の一部の図面でも全ての図面でもよい。これにより、著者のカラー図面使用に対する経費負担を大幅に軽減することが可能となる。印刷出版におけるカラー図面の経費は1頁あたり45,000円を堅持する。
6. EPS 誌の購読数を拡大するためEOSに大型の広告を出すことにした。2回広告を出すことを考えており、効果的なタイミングについて検討をしている。  
(小野高幸)

## 海外からの学会参加及び 国際研究集会派遣援助募集

- 地球電磁気・地球惑星圏学会 第108回および第109回総会・講演会への海外参加候補者の募集のお知らせ  
国際学術交流事業の一環として、主としてアジア諸国の関連分野研究者が本学会春季並びに秋季講演会に参加するための来日旅費及び滞在費の補助を下記により行ないますので、推薦希望者は期日までに応募願います。
- 1. 対象の集会：地球電磁気・地球惑星圏学会第108回および第109回総会・講演会
- 2. 応募資格：主としてアジア諸国の関連分野の研究者で、1の講演会で論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの。当該研究者の推薦は本学会正会員が行う。
- 3. 募集人員：若干名
- 4. 応募手続き：所定の申請書類（学会事務センター備付）を期日までに本学会運営委員会（〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター内地球電磁気・地球惑星圏学会気付）に提出する。  
期日：平成12年8月31日（木）

5. 補助金受領者の選考・義務：学会基金による国際学術交流事業運用規定に基づいて行なう。

●国際学術研究会への出席補助金受領候補者の募集のお知らせ

国際学術交流事業の一環として、外国で開催される国際的な学術研究会（米国地球物理学連合春季秋季大会等も含む）へ参加するための経費（渡航旅費及び滞在費）の一部補助を下記により行ないますので、希望者は期日までに応募願います。

1. 対象の集会：平成12年10月1日（日）～平成13年3月31日（土）の期間に外国で開かれる国際的な学術研究会

2. 応募資格：35才以下（応募期日時）の地球電磁気・地球惑星圏学会正会員で国際的な学術研究会に出席し論文の発表又は議事の進行に携わる予定のもの。

3. 募集人員：若干名

4. 応募手続き： 所定の申請書類（学会事務センター備付）を期日までに本学会運営委員会（〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター内地球電磁気・地球惑星圏学会気付）に提出する。

期日：平成12年8月31日（木）

5. 補助金受領者の選考・義務：学会基金による国際学術交流事業運用規定に基づいて行なう。

（大村 善治）

## 人事公募・助成等

●京都大学宙空電波科学研究センター

1. 募集する教官ポスト：教授1名
2. 所属：宇宙電波科学研究部門
3. 研究分野：電波科学シミュレーション分野
4. 専門分野等：電波科学・計算機シミュレーション

（計算機実験による宇宙プラズマ波動を中心とする電磁環境解析）

本分野では、スペースプラズマ中における電磁波現象および非線形波動・粒子相互作用の研究を、スーパーコンピュータによる大規模計算機シミュレーションを中心として行っています。宇宙プラズマ波動を中心とする粒子コード等の計算機シミュレーションによる電磁環境解析の研究分野を発展させ、研究を推進・指導できる実績、及び能力を有する方で、全国共同利用設備である先端電波科学実験装置（A-KDK）の共同利用の推進においても中心になり、意欲をもってその責務に当たる方を希望します。

5. 必要書類

- (1) 履歴書（大学卒業以降の学歴、学位、研究歴、等）
- (2) 研究業績リスト（主要業績は別刷り各1部を添付）
- (3) これまでの研究概要（2,000字程度）
- (4) 当該研究分野での研究計画・抱負の概要（2,000字程度）

(5) 応募者について意見を聞ける2名程度の方の氏名と連絡先。なお推薦者がある場合は推薦書を添付して下さい。

6. 応募締切：平成12年6月30日（金）必着

7. 応募書類提出先：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄  
京都大学宙空電波科学研究センター  
センター長 深尾昌一郎

電話：0774-38-3806 FAX：0774-31-8463

電子メール：fukao@kurasc.kyoto-u.ac.jp

※ 封筒の表に「電波科学シミュレーション分野 教官応募書類」と朱書き、郵送の場合には「書留」にして下さい。

8. 着任時期：出来るだけ早い時期

●国立極地研究所・超高層物理学第一研究部門

1. 募集する教官ポスト：助教授または助手1名
2. 所属：研究系・超高層物理学第一研究部門
3. 研究分野：超高層物理学の研究
4. 資格等：当該研究部門・超高層物理学研究グループが実施・計画している南極域及び北極域における中間圏・熱圏・電磁気圏の観測・研究に積極的に参加し、これらの推進に寄与するとともに、超高層物理学におけるテレサイエンスやコンピュータライゼーションの展開に必要な役割を担う熱意及び能力を有する方。なお、共同利用研究機関及び総合研究大学院大学基盤研究機関としての国立極地研究所

の役割等を良く理解し、意欲を持ってその責務に当たられる方を希望します。

5. 必要書類

- (1) 履歴書 (大学卒業以降の学歴、学位、研究歴、等)
- (2) 研究業績リスト (主要業績3編は別刷り各1部を添付)
- (3) これまでの研究概要 (2,000字程度)
- (4) 当該研究分野での研究計画・抱負の概要 (2,000字程度)
- (5) 推薦書 (推薦者がある場合) の添付と、応募者について意見を聞ける2名程度の方の氏名と連絡先。

6. 応募締切り：平成12年6月30日 (金) 必着

7. 応募書類提出先：

〒173-8515 東京都板橋区加賀1-9-10  
国立極地研究所  
資料主幹 江尻全機  
Tel:03-3962-4791 Fax:03-3962-4862  
電子メール：ejiri@nipr.ac.jp

※封筒の表に「超高層物理部門教官応募書類」と朱書き、郵送の場合には「書留」にして下さい。

8. 着任時期：出来るだけ早い時期

応募方法：所定の用紙に略歴、研究業績の他、海外調査などに関しては対象地(国名、地域名)、目的・計画、推薦理由、同行者などを記入し、海外シンポジウム出席については国際会議名(主催団体、開催場所、開催年月日)、発表論文題目、推薦理由及び推薦者氏名・肩書きを書いて、3のあて先へ送付。

総務〆切：2000年6月22日 (木)

推薦締切：2000年8月31日 (木) と

2001年1月15日 (月) の2回

3・応募先：地球化学研究協会

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北4-29-2-117  
電話：03-3330-2455 (FAX兼用)

●井上学術賞 (平成12年度)

総務締切り：2000年6月22日 (木)

推薦締切り：2000年9月20日 (水) 必着

自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた、50歳未満の研究者が対象。学術賞として、賞状及び金メダルと副賞200万円が授与されます。本学会の評議員会の議を経て候補者1名が推薦されます。

連絡先：財団法人井上科学振興財団

〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町 11-20

電話：03-3477-2738 FAX：03-3477-2747

## 研究助成等

<学会推薦が必要なもの>

●地球化学研究協会2000年度 地球化学研究会学術賞「三宅賞」および研究助成  
地球化学研究協会より、「三宅賞」および研究助成候補者の推薦依頼がありました。下記の要領で応募して下さい。賞・助成とも、詳細な応募要領と応募用紙が学会事務局にあります。

1・三宅賞

対象：地球化学に顕著な業績をおさめた科学者  
表彰の内容：賞状、副賞として賞金30万円、毎年1件(1名)

応募方法：所定の用紙に必要事項を書いて、3のあて先へ送付

総務〆切：2000年6月22日 (木)

推薦締切：2000年8月31日 (木)

2・研究助成

対象：海外シンポジウムに出席・論文を発表し、または海外の学術研究調査等に参加する地球化学の若手研究者。下記締切日に40才未満であること。

助成内容：1件10万円、毎年数件

●東レ科学技術賞および研究助成 (平成12年度)

総務締切り：平成12年9月11日 (月) 必着

推薦締切り：平成12年10月10日 (火) 必着

1・科学技術賞

対象：学術上の顕著な業績・重要な発見・発明、技術上の重要問題解決など

賞：賞状、金メダル、賞金500万円、2件前後

推薦数：本学会より2件以内

2・研究助成

対象：独創的・萌芽的研究を行なっている若手研究者

助成金：一件3千万円以下10件程度、総額1億3千万円

推薦数：本学会より2件以内

・候補者推薦要領と推薦書用紙は6月頃学会に届けられる予定

・平成12年7月1日以降はホームページからもダウンロード可の予定

(<http://www.toray.co.jp/kagaku.html>)

3・連絡先：(財)東レ科学振興会

〒279-8555 浦安市美浜1-8-1

tel: 047-350-6103 fax: 047-350-6082

<その他>

●井上フェロー（平成12年度）

基礎科学分野の45才未満の研究者が研究計画の推進に協力が得られる35才未満の研究者を外部から選定し、井上フェローとして参加させるための助成。採択予定数は10名程度。期間は平成13年4月1日から2年間。支給経費は月額35万円（外国人の場合は、往復国際航空運賃等も支給）。

〆切：2000年9月20日（水）（当日消印有効）

連絡先：財団法人井上科学振興財団

〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町 11-20

電話：03-3477-2738 FAX：03-3477-2747

●宇宙科学振興会

（財）宇宙科学振興会 平成12年度宇宙科学研究助成候補者募集（国際研究集会参加費用補助）

（財）宇宙科学振興会（理事長 関本忠弘）では、下記の参加希望者を募集します。関心のある方は募集要項・申請書を請求の上、お申し込み下さい。

記

1. 助成対象：宇宙理学（地上観測を除く）及び宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する独創的・先駆的な研究活動を行う若手研究者（昭和40年4月2日以降生まれの者に限る）で、国際研究集会で論文発表が原則として確定している者。但し論文発表採択が未確定の場合でも申請できますが論文発表が条件となります。なお、大学・研究機関等所属長の承諾を得て応募して下さい。
2. 援助金額：1採択当たり約15～20万円
3. 申込受付時期：随時受付けますが、次の締切りに間に合うようお願いします。（選考は年3～4回）  
・2000年11月1日以降出發者については9月15日（金）  
・2001年3月1日以降出發者については1月15日（月）
4. 採択件数：年間10～15件程度
5. 照会先：（財）宇宙科学振興会事務局  
〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1  
文部省 宇宙科学研究所内  
TEL：042-751-1126

●第22回宇宙ステーション利用計画ワークショップ

日時：平成12年 6月28日（水）9:30-17:00

6月29日（木）9:30-17:30

6月30日（金）9:30-17:10

場所：砂防会館 シェーンバッハ・砂防

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5

内容：宇宙ステーション利用に関する我が国の推進体制、宇宙環境利用研究の実施状況等について、利用者の理解を深め、利用の拡大を図るとともに、利用者の意見をとりまとめ、今後の宇宙ステーションの利用計画等に反映する。

主催者：科学技術庁（予定）、宇宙開発事業団  
協賛・後援団体名：28の学会の協賛（予定）

参加費：無料

詳細問い合わせ先：

（財）宇宙環境利用推進センター

宇宙実験推進部 担当：米/野村

〒169-8624 東京都新宿区西早稲田3-30-16

TEL：(03)5273-2442 FAX：(03)5273-0705

（参考）宇宙開発事業団ホームページ：

<http://jem.tksc.nasda.go.jp/utiliz/workshop/index.html>

会員名簿の更新に関するお願い

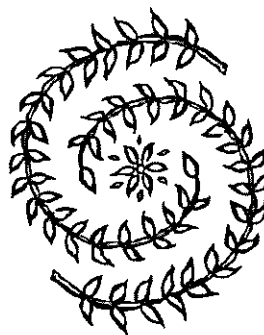
今年中に新しい会員名簿を発行します。つきましては1998年度発行の名簿の記載事項に変更、あるいは訂正のある方は、次項の書式にて学会事務センターに郵送もしくはFAXにてお知らせくださるようお願いいたします。なお、7桁の新郵便番号を独自に保有している事業体（大学・研究機関・企業等）に所属の方で、その番号に変更する必要がある方はこの機会にお届けいただけると幸いです。

名簿担当：家森俊彦

e-mail: iyemori@kugi.kyoto-u.ac.jp

電話：075-753-3949

締め切り：2000年6月30日（金）



地球電磁気・地球惑星圏学会名簿訂正用原稿

名簿訂正のみ

会誌送付先も変更

(この用紙をコピーしてお使い下さい。訂正部分は赤字で目立つようにして下さい。  
FAXでお送りの場合は、黒のボールペン等で濃く明瞭に書いて、線で囲む等、  
訂正部分が分かるようにしてください。)

漢字 氏名 \_\_\_\_\_ 会員番号 \_\_\_\_\_ (正, 学生, シニア) 会員

ローマ字 氏名 \_\_\_\_\_

(名字, 名前の順)

所属機関名称 \_\_\_\_\_

所属機関住所 〒 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_ (代表, 直通) 内線 \_\_\_\_\_

FAX番号 \_\_\_\_\_

E-mailアドレス \_\_\_\_\_ (主なもの一つ)

自宅住所 〒 \_\_\_\_\_

自宅電話番号 \_\_\_\_\_

最終学歴 \_\_\_\_\_ 大学 \_\_\_\_\_ 学部 \_\_\_\_\_ 学科 19\_\_年卒業

\_\_\_\_\_ 大学大学院 \_\_\_\_\_ 研究科(修士, 博士) 課程

\_\_\_\_\_ 専攻 19\_\_年修了

専門(次の中から一つ選択)

宇宙線物理	岩石磁気・古地磁気	電波工学
電波・赤外天文	地球・惑星内部	環境科学
惑星間空間	地球内部電磁気学	生物科学
太陽物理	年代学	宇宙工学
地球・惑星磁気圏	火山学	宇宙空間プラズマ
地球・惑星電離圏	地震学	地球・惑星探査
地球・惑星大気	海洋学	測地学
太陽系・惑星起源論	物理探査	地球・惑星地質学
地球・惑星磁場生成論	磁気探査・磁気異常	地球・惑星開発工学

(送付先) 〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9

(財) 日本学会事務センター会員業務部

地球電磁気・地球惑星圏学会名簿訂正係

FAX: 03-5814-5810



# 2000年地球惑星科学関連学会合同大会 SGEPSS固有セッションスケジュール概要

2000年地球惑星科学関連学会合同大会が下記のとおり開催されます。

日程：2000年6月25日（日）～28日（水）  
 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター  
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1  
 TEL. 03-3467-7201（代）  
 FAX. 03-3466-7010・03-3467-7797  
<http://www.nyc.go.jp/>

交通：

- 小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分
- 京王帝都バス  
新宿駅西口（16番）または、渋谷駅南口（14番）より乗車、代々木5丁目で下車
- 地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分

## 合同大会 SGEPSS 関連プログラム

【会場】	【収容人数】	【AM】	【PM】	【夜EV】
<b>6月25日（日）</b>				
C309	160		Ea：磁気圏・電離圏	ポスター
C310	160		Eb：電離圏・熱圏・中間圏	ポスター
<b>6月26日（月）</b>				
C309	160	Ea：磁気圏・電離圏	Ea：磁気圏・電離圏	
C310	160	Eb：電離圏・熱圏・中間圏	Eb：電離圏・熱圏・中間圏	
			Ed：対流圏・成層圏	
C402	120		Ee：宇宙プラズマ	ポスター
C409	80	Ec：古地磁気・岩石磁気	Ec：古地磁気・岩石磁気	ポスター
<b>6月27日（火）</b>				
IC	250	Ee：宇宙プラズマ Ei：磁気圏構造とダイナミクス	Za：フューチャー	ポスター
C101	200		SGEPSS総会	
C415	40	Eh：地球内部電磁気		ポスター
C513	80	Eg：太陽圏		ポスター
<b>6月28日（水）</b>				
IC	250	Ei：磁気圏構造とダイナミクス	Ei：磁気圏構造とダイナミクス	

第107回総会

6月27日（火） 16:00—19:00 C101号室

外圏大気連絡会

27日（火） 12:30—14:00 C415号室

電磁気研連・地磁気観測作業委員会

28日（水） 10:00—12:30 C415号室

CA研究打ち合わせ会

28日（水） 12:30—14:00 C510号室

# SGEPSS Calendar

[2000年]

- 5月29日～6月2日: Workshop on Waves in Dusty Solar and Space Plasmas Belgium  
5月30日～6月3日: AGU Spring Meeting Washington D.C., U.S.A.  
6月25日～28日: 地球惑星科学関連学会合同大会 国立オリンピック記念青少年センター  
6月27日～30日: 2000 Western Pacific Geophysics Meeting Tokyo, Japan  
7月16日～23日: 33rd COSPAR Scientific Assembly Warsaw, Poland  
8月2日～3日: 第24回極域における電離圏磁気圏総合観測シンポジウム 国立極地研究所  
9月19日～21日: International Workshop on Seismo Electromagnetics IWSE2000  
Chofu Tokyo, Japan  
10月2日～6日: The First S-RAMP Conference Sapporo, Japan  
11月20日～23日: 第108回総会・講演会 板橋文化会館・公民館  
12月15日～19日: AGU Fall Meeting San Francisco Calif., U.S.A.

[2001年]

- 7月17日～22日: 第25回電離気体現象国際会議 名古屋国際会議場  
7月下旬: International EISCAT Workshop 国立極地研究所(予定)  
8月2日～4日: AP-RASC'01 2001年アジア太平洋電波科学会議 中央大学, 東京  
8月18日～30日: IAGA-IASPEI Joint Scientific Assembly Hanoi, Vietnam

SGEPSSカレンダーは会員からのお知らせで成り立っております。国内外の学会、研究会、委員会、予稿締切等、皆様に広めるべきことがございましたら会報担当までお知らせください。

## <地球電磁気・地球惑星圏学会>

会長 松本 紘

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学超高層電波研究センター

TEL:0774-38-3805 FAX:0774-31-8463 e-mail: matsumot@kurasc.kyoto-u.ac.jp

総務 大村 善治

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学超高層電波研究センター

TEL:0774-38-3811 FAX:0774-31-8463 e-mail: omura@kurasc.kyoto-u.ac.jp

庶務 麻生 武彦(会報担当)

〒173-8515 東京都板橋区加賀1丁目9番10号 国立極地研究所 北極圏環境研究センター

TEL:03-3962-4756 FAX:03-3962-5701 e-mail: aso@nipr.ac.jp

運営委員会

〒113-8622 東京都文京区本駒込5丁目16番9号 学会センターC21 (財)日本学会事務センター気付

TEL:03-5814-5810 会員業務(入退会、住所変更等、会費、会誌)

03-5814-5801 学会業務(庶務、窓口、渉外) FAX:03-5814-5820

入会申し込みは運営委員会宛、研究助成金案内は総務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。

会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿をお待ちしています。